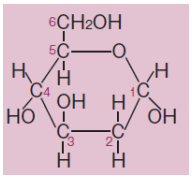
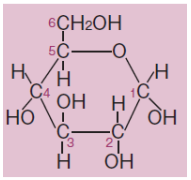
『愛玩動物看護師国家試験対策　楽しく学べる参考書』（第 1 版第 1 刷）
訂正とお詫び

掲載記事中、以下の記述に誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに、読者の皆様および関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

株式会社 EDUWARD Press

2026 年 11 月 6 日作成

頁	記事タイトル	該当箇所	誤	正
p. 13	第 1 章「遺伝子異常」	表の下から 2 行目	ライゾソーム病	ライ**ソゾ**ーム病
p. 17	第 1 章「解糖系と TCA サイクル」	▲解糖系 左上の図		
p. 39	第 1 章	▼支持組織の分類の表上から 3 コマ目中央	軟骨組織と軟骨気質で構成	軟骨**細胞**と軟骨気質で構成
p. 70	第 1 章「肢の関節」	「後肢」のイラスト引き出し文字部	中骨骨	中**足**骨
p. 97	第 1 章「血圧の調節」	「主な血圧調節因子」の表の「血圧低下作用」の一番下	・ドーパミン	**削除**
p. 98	絶対に覚えよう！「主な血圧降下薬」	表内の ACE 阻害薬	ベナセプリル	**ベナゼプリル**
p. 109	第 1 章「胎子期の血液循環」	「▲胎子期の血液循環」の図、後大静脈のすぐ上の引き出し部	引き出し線先が空欄	**腹大動脈**

EDUWARD Press

p. 113	第 1 章「犬糸状虫症の予防」	上から 4 行目	レバニゾール	**レバミゾール**
p. 113	第 1 章「犬糸状虫症の予防」	▼成虫治療のポイントの表内	メラソルミン	**メラルソミン**
p. 119	第 1 章「心電図、心音、心室の動き」	心電図波形図の左にある収縮期の開始位置	「S」から始まっている	「R」の真下から始まる ※コチラより修正後の表をご確認ください。
p. 130	第 1 章「ヘマトクリット値（Ht 値）と血清総タンパク質（TP）」内	囲みの下から 2 行目	自分たちで輸血していたら	自分たちで**輸液**していたら
p. 133	第 1 章	下から 2 行目	複数腫の～	複数**種**の～
p. 136	第 1 章「移行抗体」	上から 6 行目	初乳を介して～	**常**乳を介して～
p. 146	第 1 章「犬のワクチン」の表	表左の「コアワクチン」を示す範囲	1行目～3行目まで	1行目～4行目まで （**「犬伝染性喉頭気管炎」も含む**）
p. 148	第 1 章「輸血副作用」	上から 5 行目	主試験として受血動物の赤血球と供血動物の血漿を、副試験として受血動物の血漿と供血動物の赤血球を混合し、赤血球の凝集反応の有無を判定する。	主試験として**供**血動物の赤血球と**受**血動物の血漿を、副試験として**供**血動物の血漿と**受**血動物の赤血球を混合し、赤血球の凝集反応の有無を判定する。
p. 149	第 1 章「交差適合試験（クロスマッチ・テスト）」	表に示された矢印	・受血動物の赤血球と供血動物の血漿が主試験（太い矢印） ・供血動物の赤血球と受血動物の血漿が副試験（細い矢印）	・受血動物の赤血球と供血動物の血漿が**副**試験（**細い矢印**） ・供血動物の赤血球と受血動物の血漿が**主**試験（**太い矢印**） **※矢印が逆** ※コチラより修正後の画像をご確認ください。

p.169	第1章「血液凝固因子の種類」	表内「その他ポイント」上から2行目	EDTAは抗トロンビン作用で抗凝固、～	**ヘパリン**は抗トロンビン作用で抗凝固、～
p.223	第1章「BUNとCre」	下から8行目	尿中に排泄されないのです。	尿中に**排泄されてしまう**のです。
p.236	第1章「歯周病の検査や治療器具」	上から4行目	把持できない歯の抜糸	把持できない歯の抜**歯**
p.240	第1章「主な実験動物の特徴」	表の「ウサギ」上から7マス目「研究」	癌粘膜刺激試験（ドレイズテスト）	**眼**粘膜刺激試験（ドレイズテスト）
p.240	第1章　絶対に覚えよう！「主な実験動物の特徴」の表	ウサギの列の上から6行目「妊娠期間」	15～16日	**30～31日**
p.250	第1章「炭水化物」	「主な炭水化物の名称」の表上から2マス目	マルクトース	**マルトース**
p.284	第1章「肝臓の血管」	上から1行目	肝臓に入る血管は門脈（栄養血管）と固有肝動脈で、	門脈と固有肝動脈で、
p.284	第1章「肝小葉」	「▲肝臓の構造」図内の引き出し線文字	類道（洞様毛細血管）	類**洞**（洞様毛細血管）
p.287	第1章「門脈体循環シャント」	「▲先天性門脈体循環シャントの種類」図内上部の引き出し線文字	後大動脈	後大**静**脈
p.310	第1章「主なホルモン」	「ペプチドホルモン」の上から3マス目の下に挿入	-	・「下垂体後葉」の下に「**甲状腺**」のマスを追加。 ・「バソプレッシン（ADH）」の下に「**カルシトニン**」のマスを追加。 ※コチラより修正後の表をご確認

				ください。
p.310	〃	下から 2 マス目	カルシトニン	**削除**
p.361	第 1 章「脊髄」	図の「視床」の引き出し線が示す位置		※コチラより修正後の引き出し線の位置をご覧ください。
p.370	第 1 章「反射」	▲膝蓋腱反射のしくみ 感覚受容器の位置		※コチラより修正後の位置をご覧ください。
p.404	第 1 章「精巣腫瘍」	上から 4 行目	ライディッヒ細胞腫は、潜在精巣の犬に発生しやすく、良性で転移はまれで、	ライディッヒ細胞腫は、良性で転移はまれで、
p.467	第 2 章	【STEP2】(排出場所)の 1 行目	感染症病巣	感染症病**床**
p.485	第 2 章	▲妥当性と精度の関係　注:の下から 4 行目	「系銃誤差大きい」	「系**統**誤差大きい」
p.502	第 3 章	表の「感染症・生理学・薬理学分野」下から 2 行目	鈴木梅三郎	鈴木梅**太**郎
p.503	第 3 章「看護記録」	上から 2.3 行目	Date	Dat**a**
p.510	第 3 章「▲X 線の進行方向」の図	AP と PA の矢印と表記	AP PA	**CrCd（頭尾側）** **CdCr（尾頭側）** ※コチラより修正後の図をご覧ください。
p.510	第 3 章「▲X 線撮影のポジショニング」	④AP と⑤PA	④ AP（antero posterior） ・前方から後方へX 線が透過 ⑤ PA（postero anterion） ・後方から前方へX 線が透過	④ CrCd**(cranialcaudal)** ・頭側から尾側へX 線が透過 ⑤ CdCr**(caudalcranial)** ・尾側から頭側へX 線が透過

				注）頭側(Cranial) 尾側(Caudal)
p.632	第4章「酸性雨」	上から1行目	～pH6.5よりも低い雨を酸性雨と呼ぶ。	～pH5.6よりも低い雨を酸性雨と呼ぶ。
p.643	第4章	「オゾン層破壊」上から6行目	オゾン回収・破壊法	フロン回収・破壊法
p.644	第4章「紫外線」	上から4行目	皮膚照射でビタミンDを活性化し、殺菌に利用している紫外線はUV-Aであり、大量に浴びない限りそれほどの害はない。	UV-Bは皮膚照射でビタミンDを活性化し、UV-Cは殺菌に利用することができる紫外線である。
p.644	第4章「紫外線」	上から5行目	UV-B、UV-CはUV-Aよりも強力な紫外線であり、大変有害である。	UV-B、UV-CはUV-Aよりも強力な紫外線であり、とくにUV-Cは大変有害である。
p.646	第4章	「特定フロン」上から7行目	オゾン回収・破壊法	フロン回収・破壊法